

# 激動の経営

## 地域の誇り

フッ素樹脂の総合メーカーとしてグローバル展開する中興化成工業。地域に深く根ざした生産にもこだわる。背景には炭鉱業を祖業に持つことがある。

## 中興化成工業

②

「黒いダイヤ」である石炭から、フッ素樹脂という「白いダイヤ」に転換した約60年の歴史だ。社長の庄野直之は「地域の誇りが結びついている」と胸を張る。

長崎県松浦市。中興化成は設立翌年の1964年から、この長崎北部にある海沿いの街に製造拠点・松浦工場を置く。現在は市内に分散する5施設に「F1」「F5」の名称を割り当てている。Fはフアクトリー（工場）、フルオロポ

## 祖業の地・松浦



リマー（フッ素樹脂）の頭文字だ。F2は最も古く、炭鉱があった

場所を構える。松浦は、中興化成の母体だった中興炭業の炭鉱があった地域。創業者の木曾重義は、松浦の炭鉱を保有する中島炭業を救うため、55年に中興炭業を立ち上げた。社名の「中興」には「中島炭業の再興」と「社員に中興の土になってほしい」との

中興化成工業のF1松浦工場（長崎県松浦市）

## 白いダイヤに磨きかける

期待が込められた。

### 経済と雇用を守る

木曾の手腕で炭鉱は

息を吹き返すものの、エネルギー転換の波にはあらがえずに縮小の道をたどる。そこで地域の経済と雇用を守るため、立ち上げた数々の新事業の一つがフッ素樹脂製品だった。

提携先の米国製品の販売に始まり、メーカーの道に歩みを進めた。全国展開を見据えて東京に本社を置いたが、工場は松浦を選んだ。地域を守るためであり、地域の力を頼りにできるからだ。炭鉱離職者やその家族、炭

鉱事故で夫をなくした女性も採用した。学校との結びつきも生き残った。

2021年度には国の「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業補助金」の採択を受け、製品供給の強化を図る。歴史あるF2でも、半導体製造装置部品の旺盛な需要に込んでいる。庄野は「先輩方のおかげで、中興化成に誇りと敬意をもってもらっている。それを後押ししたい」と、土地の力、人の力を信じて「白いダイヤ」の輝きに磨きをかけ続ける。（敬称略）

### 製品供給強化

現在も松浦工場はフィルムやベルト、シートといった幅広い製品を生産する主力拠点で

あり続ける。松浦には、全従業員の3分の2ほどに当たる約300人が在籍する。